

LINTEC

WAVE

株主通信誌

JUNE 2024

95

社長インタビュー

長期ビジョンの実現に向けて 新中期経営計画が始動

代表取締役社長 社長執行役員

服部 真

第130期

(2024年3月期)

決算情報

証券コード：7966

LINTEC WAVE 95

JUNE 2024



ゆみがわきょうこく
由布川峡谷 (大分県)

高さ15m~60mの岩肌が約12kmにわたって続く。40数条の滝が糸のように流れ落ちる美しい景観が特徴。

目次

2 1年間の主な動き

4 社長インタビュー

長期ビジョンの実現に向けて 新中期経営計画が始動

代表取締役社長
社長執行役員

服部 真

9 トピックス

10 LINTEC ESSAY

自分への投資が最高の投資 宮本 亜明

12 決算情報

14 セグメント情報

17 会社概要/役員一覧

18 株式情報

19 アンケートへのご協力をお願い

お知らせ

これまで年4回発行していた当誌「LINTEC WAVE」は、今期より年2回発行(6月・通期決算号、12月・中間決算号)に変更いたします。

今後もウェブサイトなどを通じて株主の皆様により詳細な情報提供に努めてまいりますので、引き続きご愛読くださいますようお願い申し上げます。

(免責事項)

業績予想などの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

1年間の主な動き



5月31日

- カナダのラベル用粘着製品の裁断加工・販売会社であるラベルサプライ社の事業を約70億円で買収



6月23日

- 使用済み剥離紙の有効活用・リサイクル促進に向け、ラベル循環協会に参画

9月20日

- 当社環境配慮ラベル素材が国際的な賞であるラベルインダストリーグローバルアワードを受賞

10月2日

- 環境意識の高まりや脱プラスチック需要に応えるフツ素樹脂不使用の耐油紙を発売



2024年3月期 第1四半期 決算発表(8月9日)



2024年3月期 第2四半期 決算発表(11月8日)

2024年3月期 第3四半期 決算発表(2月8日)

10月19日

- 半導体の偽造防止技術確立に向けた国家プロジェクトへの参画を発表



11月1日

- プラスチック容器のリサイクルを促進するラベル素材の新アイテムを発売

12月12日

- 次世代半導体向けのEUV露光機用ペリクルの要素技術の確立を発表



(写真提供: imec)

12月20日

- 半導体関連製品や新規プロセスの研究開発を担う新たな組織として、福岡県の三次元半導体研究センター内に「実装技術開発室」を開設



12月20～24日

- 「第92回 全日本フィギュアスケート選手権大会」に協賛

1月1日

- リンテック人権方針を制定

1月15日

- インドネシアのラベル用粘着製品の販売会社であるマルチヤサ スワダヤ社を約11億円で買収



3月21日

- 韓国・台湾の光学ディスプレイ関連粘着製品の製造子会社の解散を発表
- 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について発表
- 新中期経営計画「LSV 2030 - Stage 2」の概要を発表



長期ビジョンの実現に向けて 新中期経営計画が始動

当社グループでは2030年を見据えた長期ビジョン「LINTEC SUSTAINABILITY VISION 2030 (LSV 2030)」の実現に向けたマイルストーンとして、2027年3月期を最終年度とする新たな中期経営計画「LSV 2030 – Stage 2」を策定し、この4月よりスタートしました。長期ビジョン達成に向けた新中期経営計画の概要や今後の見通しなどについて服部社長に聞きました。



2030年3月期財務指標

売上高営業利益率 **12%以上**

ROE (自己資本当期純利益率) **10%以上**

代表取締役社長
社長執行役員

はっとり まこと
服部 真



最初に前中期経営計画「LSV 2030 – Stage 1」の業績の振り返りをお願いします。



2021年4月スタートの「Stage 1」では、初年度に売上高・利益ともに過去最高を記録し、最終年度の経営目標を前倒しで達成したこともあり、当初の数値目標を大幅に上方修正しました。しかし2年目には、原燃料価格や物流費の高騰に加えて、電子・光学関連製品や他の製品の急激な受注減少に伴う生産設備稼働率低下による操業損失が発生するなど、収益面では極めて厳しい事業環境が続きました。

最終年度の2024年3月期においては、価格改定や円安効果に加え、第3四半期以降、半導体・電子部品関連製品やシール・ラベル用粘着製品を中心に受注は回復傾向にありましたが、上期の不振をカバーするまでには至りませんでした。また、韓国と台湾の連結子会社の解散決議に伴い、特別損失を計上いたしました。以上の結果、2024年3月期の連結業績につきましては、下記のとおり減収減益となり、「Stage 1」の経営目標も未達となりました。

2024年3月期連結業績（前期比）

売上高

276,321 百万円 (2.9%減)

営業利益

10,628 百万円 (23.0%減)

経常利益

11,537 百万円 (26.1%減)

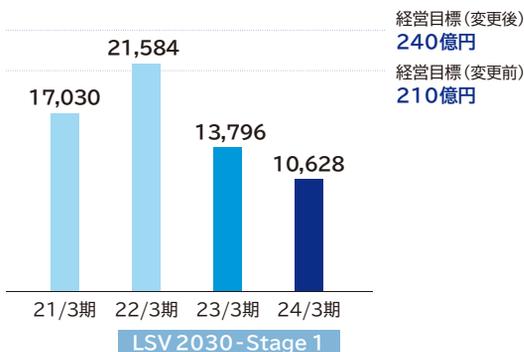
親会社株主に帰属する当期純利益

5,243 百万円 (54.5%減)

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



Q 「LSV 2030 – Stage 2」では、どのようなことに取り組んでいくのでしょうか。

A 「Stage 1」に続き、長期ビジョン「LSV 2030」の実現に向けた三つの重点テーマに沿って、社会的課題の解決に向けた取り組みはもちろん、いかなる事業環境下でも確実に利益を稼ぎ出せるよう企業体質の強靱化を進めてまいります。具体的には、不採算事業の撤退を含めたポートフォリオの再構築を図るとともに、国内外グループ会社の経営健全化、省エネ・高品質・省人化などを目的とした新規設備の導入や生産プロセス革新を通じたコスト競争力アップによる高収益化に努めます。また、「Stage 1」で要素技術

確立したEUV露光機用ペリクルの早期量産を目指すほか、2023年に開設した実装技術開発室などを活用し、先端半導体におけるパッケージング技術に関わる新たな製品・プロセスの提案を図るなど、成長投資や研究開発にも注力してまいります。

「Stage 2」では、財務基盤の強化を図りつつ期間中に生み出す約1,300億円のキャッシュフローを企業価値向上のための設備投資などに約600億円、研究開発投資に約320億円、そのほかM&Aなどの機動的投資にも活用いたします。加えて、積極的な株主還元も行ってまいります。

長期ビジョン

「LINTEC SUSTAINABILITY VISION 2030」(略称: LSV 2030)

基本方針

イノベーションによる企業体質の強靱化と持続的成長に向けた
新製品・新事業の創出を通じて、サステナブルな社会の実現に貢献する

重点テーマ

1. 社会的課題の解決

- (1) 環境…脱炭素社会・循環型社会の実現への貢献 など
- (2) 社会…人権の尊重、ステークホルダーへの情報開示とコミュニケーション強化 など
- (3) ガバナンス…コーポレートガバナンスの強化、取締役会の実効性のさらなる向上 など
- (4) 事業活動を通じたSDGs達成への貢献

2. イノベーションによる企業体質の強靱化

- (1) DXによる設計・開発・製造・物流・業務プロセスの変革
- (2) ビルド&スクラップによる省エネ、高品質、高効率、省人化を目的とした新規生産設備の導入
- (3) 生産プロセス革新によるコスト競争力の強化
- (4) 低成長・不採算事業の構造改革とグループ会社の経営健全化
- (5) 強固な財務基盤の維持と資本効率の向上

3. 持続的成長に向けた新製品・新事業の創出

- (1) 技術革新による新製品・新事業の創出
- (2) 戦略的投資の拡大と機動的M&A
- (3) さらなるグローバルプレーヤーへの飛躍
- (4) ローカリゼーションの確立

LSV2030 – Stage 2

2027年3月期(最終年度)経営目標

売上高

3,150 億円

営業利益

255 億円

親会社株主に帰属する当期純利益

180 億円

売上高営業利益率

8%以上

ROE(自己資本当期純利益率)

8%以上

各事業部門の主な取り組み

■印刷・情報材事業部門

- 北米やアジアでの拡販と収益向上
- 地球環境との共生と循環型社会の実現に向けた取り組み など

■産業工材事業部門

- ウィンドーフィルムのさらなる高機能化と拡販
- 労働力不足の解決や生産効率の向上に貢献する新製品の開発やシステムの拡販 など

■アドバンストマテリアルズ事業部門

- エレクトロニクス市場の成長に向けた継続的な設備投資と需要対応
- 先端半導体後工程におけるパッケージング技術に関わる新たなテープや装置、独自プロセスの開発
- EUV露光機用CNTペリクル量産体制の確立 など

■オプティカル材事業部門

- 光学ディスプレイ関連粘着製品の展開
- 車載用OCA(Optical Clear Adhesive)などの新製品の開発と拡販 など

■洋紙事業部門

- 耐油紙のさらなる用途展開
- プラスチック代替高機能紙の開発・拡販 など

■加工材事業部門

- 合成皮革用工程紙の海外展開強化
- 炭素繊維複合材料用工程紙の拡販 など

キャッシュロケーション(2025年3月期~2027年3月期)

財務基盤の強化ならびに将来の企業価値向上のための生産設備や研究開発投資などに有効活用する

<p>「Stage 2」期間中の キャッシュフロー (営業利益+減価償却費+のれん償却)</p> <p>約1,300億円</p> <p>外部資金調達</p>	<p>成長投資</p>	<p>設備投資ほか</p> <p>約600億円</p> <ul style="list-style-type: none"> • 積層セラミックコンデンサ関連テープ塗工設備 • 半導体関連粘着テープ塗工設備 • 剥離紙塗工設備 • 環境関連投資 • DX関連投資
		<p>研究開発投資</p> <p>約320億円</p> <ul style="list-style-type: none"> • 半導体パッケージング技術に関わる新たなテープや装置、独自プロセスの開発 • EUV露光機用CNTペリクル量産体制の構築 • 環境配慮製品の開発
		<p>M&Aなどの 機動的投資</p> <ul style="list-style-type: none"> • 国・地域、新市場、新領域への展開
	<p>株主還元</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 「Stage 2」最終年度の2027年3月期までは原則として減配せず配当性向40%以上またはDOE3%を目途に配当を実施 ▶ 機動的な自己株式の取得 	

Q 今期の業績見通しについて教えてください。

A 2025年3月期につきましては、欧米を中心とした金融引き締めやウクライナ・中東情勢の長期化、さらに米中対立など、先行き不透明な状況が続くと予想されます。しかし、生成AI向けの半導体関連装置の大口受注や半導体関連粘着テープ・積層セラミックコンデンサ関連テープの需要回復によるアドバンストマテリアルズ事業の伸長のほか、米国のマックタック・アメリカ社の業績改善や単体における価格改定効果・販売数量増加などを見込み、業績予想は増収増益としました。事業

環境の変化に大きく左右されない企業体質の強靱化を進め、業績の向上に努めてまいります。

2025年3月期連結業績予想(前期比)

売上高	2,900億円 (5.0%増)
営業利益	180億円 (69.4%増)
経常利益	180億円 (56.0%増)
親会社株主に帰属する当期純利益	130億円 (147.9%増)

Q 株主還元策を含め、株主・投資家の皆様へのメッセージをお願いします。

A 前期の期末配当につきましては当初予想どおりの1株当たり44円とし、年間で88円とさせていただきます。前期に発表した配当方針を継続し、「Stage2」期間中(2027年3月期まで)は原則として減配せず、配当性向40%以上またはDOE(株主資本配当率)3%を目途に配当を実施してまいります。さらに、手元資金を勘案のうえ、適宜必要性を判断しながら機動的に自己株式の取得も検討していくほか、株式市場との建設的な対話やIR活動の強化にも取り組むなど、企業価値の向上と継続的なPBR(株価純資

産倍率)1倍超えを目指してまいります。

株主・投資家の皆様には引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

PBR(株価純資産倍率)

